

(別紙)

VI 研究の構想図

学校教育目標

自らの病気や障害を乗り越え、力いっぱい努力して
明るく生きがいのある生活を送ることができる児童生徒を育てる。

本校の目指す児童生徒の姿

- (1) 強くたくましい意志を持ち、主体的に学習に取り組む児童生徒
- (2) 真実や美しさを愛し、豊かな心をはぐぐむ児童生徒
- (3) 深く知識を求め、よく考えて自らを高めようとする児童生徒
- (4) 生命を尊び、思いやりをもって人のために尽くす児童生徒

「明るく・強く・がんばる子」

研究主題

「児童生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の在り方
－ 適切な実態把握に基づいた実践をとおして － 」

研究の目標

「適切な実態把握」をとおして、児童生徒の目標設定と実践を進めることで、児童
生徒の特性に応じたコミュニケーション能力を引き出す支援の充実を目指す。

研究の内容と方法

現職教育研修会

事例研究

実態把握

(段階表やチェックリスト等の活用)

目標設定

支援の検討

実践

事例研究報告書の作成

チェック・共有 情報交換

中間報告会

報告会

研究全体会 (年度末)

研究グループ活動

本校の現状

○児童生徒の実態

- ・ 障害の程度や発達の状況等それぞれ実態が大きく異なる。
- ・ 意志表出をすることが困難な児童生徒や自分の気持ちや要求を適切に伝えられない児童生徒も多い。
- ・ 高等部卒業後の進路は様々である。

○教師の現状

- ・ 児童生徒のコミュニケーション能力の育成に難しさを感じている。
- ・ 児童生徒の実態把握は、主に「児童生徒の行動観察」や「前担任からの聞き取り」により行っている。
- ・ 実態把握を行う上で「的確に捉えること」を難しさや課題としている。